平成6年予算特別委員会（第6日）3月24日

鈴木委員 最後になりましたので、できるだけ簡単に2点ほど質問を申し上げたいと思います。

最初に、自動車駐車場の特別会計についてお尋ねいたしたいと思います。駅前周辺の駐車難ということで、2月1日に岡東町駐車場がオープンになったんですけども、ちょっと現状をどういう状況かお知らせ願いたいと思います。

中島交通対策課長 お答えいたします。2月1日にオープンいたしました岡東町自動車駐車場につきまして、2月末現在で利用者の方は1,721台でございます。単車の方で12台の利用がございます。以上でございます。

鈴木委員 1日にしますとどれくらいの平均台数で、1日の売り上げをちょっとわかればお知らせ願いたいと思います。

恵阪土木部長 2月1日にオープンさせていただきまして、一番当初入っております少ない台数のときは28台、一番最高が138台が駐車をしていただいているわけでございます。ただいま御指摘いただきました売上料金についてはちょっと詳細にわたって把握をしておりませんので、後ほど示させていただきたいというふうに思います。

鈴木委員 1台当たりの駐車時間がわかれば、平均でお知らせ願いたいと思います。

今道土木部次長 自動車の1台当たりの駐車時間ですけども、約2時間程度です。

鈴木委員 そうしますと、平均の台数をおっしゃらなかったんでちょっとよくわからないんですけども、30台ぐらいから130台、平均すると70台ぐらいかなというふうに推測で申し上げるんですけども、1車当たりの平均が2時間としますと、今1時間が300円の200、200で700円ですから、掛けてもろたらどれくらいの金額か出ると思うんです。

僕は、この165ページに平成6年度の使用料の予測数字が出ているわけです。9,574万9,000円が1年間の、要するに駐車料金の売り上げの予測なんです、予算ですから。この9,574万9,000円を1月で平均割りますと約800万円の売り上げ予測をしています。これを1日で割りますと約27万円。現行からしますと恐らく平均ですと3万円ぐらいでしょう、売り上げが。そうすると、私は今回のこの平成6年度の駐車場経営についての売り上げ予測が大変大きな差があるというふうに見るんですけど、御答弁願いたいと思います。

恵阪土木部長 当初この駐車料金につきましては、260台の2回ということで収入を見込んでおるわけでございます。まだオープンいたしまして間がないということで、入っていただく方のまだまだPR等も不足を来しておるのではなからうかというふうに思っておるわけでございます。今後とも駐車をしていただくような方策を早急に講じながら、この見込みを立てております料金収入に対しまして努力を重ねてまいらなければならないというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

鈴木委員 この平成6年度の売り上げ予想数字が27万円で、現行から見ますと2月、3月、3月20日が一番多くて170台だそうです。私直接向こうで聞きましたらその程度ですんで、これから上がってくるとは思いますけれども、それにしても、10分の1、現行としたら。じゃあ、この段階で僕は10倍のその数字が違うというのは、今回のこの数字というのは大きな読み間違い、読み間違いという言葉はちょっとあれですけども、予測とは随分と現実とは違うんちゃうかというふう思うんですけども、これは修正せないかん数字じゃないかと思うんですけども、その辺はどうなんですかね。

恵阪土木部長 確かに現状から見てまいりますと、予定の駐車に達しておらないわけでございますけれども、オープンして間もないことでございます。将来のこの料金収入の目標に向かって取り組まなければいけないとい

うふうに肝に銘じておりますので、その努力目標に向かって取り組んでまいりたいと思います。

鈴木委員 民間からしますと考えられない予測なんですよ。この数字だけ見ましても大変大きなずれがあると思います。バブルが崩壊しまして民間企業というのは大変厳しい経営状況に置かれてるわけですから、ほとんどこれ赤字になってくるわけですよ。実質的にはもう、きょうの売り上げ何ぼやねんというようなところから、シビアな数字でやってるのが実際の企業経営の在り方なんですから、私はちょっとその辺の観点からしますと、大変まだ認識なさってないん違うかというふうに思います。

あえて、時間がありませんから指摘申し上げたいんですけども、売り上げを上げるについてはたくさん車を入れないかんわけですから、残念ながら今部長もおっしゃったように、まだ市駅周辺で今回のこの駐車場ができたということも認識ない方が多いわけで、特に市民については認識されてると思いますけども、市外から来る方につきましてはまだまだその駐車場があるということは知らないわけです。それで、例えば大阪市内なんが行きますと、特に遠くの方から、遠隔地から来る人の導入部分でのサイン計画といいますが、例えば1号線であるとか、高槻のあの橋のところであるとか、そういった形の駐車場へ誘導するようなそういうサイン計画というのか、告知、看板ですね、そういったものも必要ですし、もう1つ指摘申し上げたいのは、売り上げを上げないかんでたくさん知らさないかんという観点と、もう1つは管理の経費なんです。

ここの119ページに運営管理費で3,623万2,000円上がってますけど、僕これ少し過剰警備、過剰管理と違うかなという面があります。御存じのように、あそこの岡東に行きますと、入り口に2人の警備員さんといいますが管理人さんがおられます。出口にも管理人さんがおられます。おっしゃってるように、1日に先ほど少ないいうて28台、多くて130台、ほんなら4人の方が交代でガードしてはるわけですけど、普通は考えられない数字。28台というのはもうほんまにないわけで、びしとその警備の人が、サービス公社の方が2人お立ちになっておられるという、仕事のには僕は1人でもいけるはずやし、当面これだけの数字の読み違いがあるんですから、たくさん入ってもらうという努力も必要やし、この管理する経費も僕は落とせるん違うかと思うんです。この辺についてはどういう御認識かお尋ねいたしたいと思います。

恵阪土木部長 確かにこの誘導ということで、私どもも今日入庫台数が非常に少ないということで、あらゆる方法を実は検討しておるところでございます。特に今警備員等、これはシルバーの皆さん方をお願いをして安全に努めておるわけでございます。これからのいろんな駐車場の運営あるいは経費等々、2月1日オープンしてまだ間がないことでございます。あらゆる方面から検討をまた加えていかなければならないというふうに現在思っておりますので、その辺につきましては御理解していただきたいと思います。

鈴木委員 そうじゃなしに、これだけの数字が恐らく1年たてば読み違いも当然出てるわけですから、管理される方だって市の方のサービス公社なわけですから、契約を途中で変えられると思うんですよ。これだけ営業不振なわけですから、当然民間であれば節減ということで減らしたりしますし、それだけの仕事量がないわけですから、警備員さんの員数だって現行で減らしてやるという、弾力的なそういう対応もすぐとらんことには決算でまたこの話が出てくると思うんですよ。その辺で早急な対策をおとりにならなければいけないですよということを申し上げているんです。そういうふうな形で理解なさったかどうかお尋ねしたいと思います。

恵阪土木部長 経営等の観点から御質問いただいております。我々もその辺については十分認識をしているところでございます。今後これにつきましても肝に銘じながら取り組んでまいりたいというふうに思っております。

鈴木委員 時間がありませんので、次に1点だけ下水道につきましてお尋ね申し上げたいと思います。

下水道につきまして、多くの委員さんの方から、特に未整備地域につきましても対策、対応なんですけれども、本来市民からしますと、自分の地域に3年後、5年後あるいは10年後、15年後にできるというようなビジョンが示されれば、自分たちの家庭のし尿のことについて浄化するなり考えられるんですけども、そういった形がなぜ明示できないのかについて御答弁願いたいと思うんですけども。

三宅下水道部長 下水道の整備の年次計画でございますが、下水道の場合は各5カ年計画でやっておりまして、今現在平成7年度まで第7次下水道整備計画、平成8年から12年までが第8次下水道整備計画という形で、5

力年計画で整備計画を立てております。その中で枚方市の場合は、計画面積約 5,173ヘクタールございます。その中で今現在1,700ヘクタールぐらい、三十数%ございますし、なかなか全面積を整備するについては年次がいつまでできるのか、その辺がまだはっきり確定しないのが現状でございます。その点御理解をいただきたいと思ひます。

鈴木委員 それで、示せない行政側のそういった形はわかるんですけども、市民から見ますと、自分の地域がいつできるかということがやっぱり一番知りたい情報だと思うんですね。そこで、整備される地域の最終年度はどれぐらいの年数を、最後の最終整備できましたという年数は出ますか。

三宅下水道部長 非常に難しい御質問をいただきまして、何せ枚方の場合は非常に面積が広がってございまして、今最終年度がいつごろかということでございますが、今の時点ではいつだということが答えられない状態でございますので、ひとつ御理解をいただきたいと思ひます。

鈴木委員 基本的には、ちょっと話が一般会計に入りますねんけども、ゴールドプランに基づいての高齢者の保健福祉計画もあいうビジョンを出しましたし、僕は下水道だってそういう目標年度のビジョンは市民に対して出すべきだと思います。出されへんということもわかりますけれども、それが僕は一つの行政の責務じゃないかというふうに思ひます、まじめな話ね。

ただ、その分についてはもう置いときますけども、じゃあその間に問題は尿の処理とか生活の雑排水の問題で、特に僕が気になったのは水道局のお話、水道局の方にちょっと質問させていただきたいんですけども、こういうような写真、パネル、これ水道局の方でお出しになってる、市民向けに。(資料を示す)実はこれいろんな形で市民の啓発ということで水道局で出されてる分なんですけど、おもしろいケースなんです。1つは、町のそういう水質を保全しようという、大事にしようということで、浄化槽というのが未整備地域については当然あるわけで、枚方に幾らの浄化槽があるかについては、お尋ねしてもどこも掌握されてないのでわからへんと思ひます。ただ、毎年やってるのが建築指導課の方で建築確認のときに申請が上がってきますから、昨年度分で282でしたか、数字はわからへんけど、全体的に枚方市内で何ぼの浄化槽があるかについてはあんまり実態としての数字はわからへん。時間がありませんから僕一方的にしゃべりますけど。

ここで僕が気になったのが、こういうような文章になってる。このパネル、写真を見ますと、「浄化槽には単独処理浄化槽と合併処理浄化槽があります。し尿だけ処理する単独浄化槽に比べ合併処理浄化槽は、し尿はもちろん生活排水全般をも浄化します」ということで、「下水の終末処理施設が家庭でも取り付けられるということなんです」ということで「お宅の浄化槽は水に優しいタイプの合併処理タイプでしょうか」というふうな形で、図の方には「単独よりも合併の方が8倍のBODの汚れが落とせる」というふうに書いてあって、読みますと合併浄化槽の推進のPRをなさってるんです。

それから、公害の方の関係で行きますと、第2期基本計画の中でも水質汚濁という観点から「市内河川の水質汚濁の状況は、生物化学的酸素要求量(BOD)で依然高く、生活排水など有機物による汚濁が依然続いており、公共下水道の整備、家庭排水対策の推進、強化が必要である」というふうな形で、総合計画の中でもこの合併浄化槽の推進をなさってますし、それから開発指導要綱の第14条の2に浄化槽方式として、集中合併浄化槽と小規模合併浄化槽と単独浄化槽というような形の文で推進されてるんですけど、余りにもそういう形で行政のビジョンとしては合併浄化槽の推進なんですけれども、実際のこの合併浄化槽を推進している所管といひますか、母体がないんですね。私もこれ合併浄化槽の担当部署をお尋ねしようと思つたら、どこもないということなんで、こういう形で水道の方でも公害の方でも河川の方でも方々でこういった形での生活雑排水のために単独よりも合併の方がいいという、そういうビジョンを出しておられながらその受け皿がないということはちょっと疑問に思っておりますので、その辺どういふふうな市の体制をお考えなのかお尋ねいたしたいと思ひます。これきょう特会やから下水になるんですか。

中島市長公室長 お答え申し上げます。ただいま委員から御指摘のございましたように、合併浄化槽に係る明確な担当セクションはないということは御指摘のとおりでございます。先ほども例に挙げられましたように、いわゆる開発指導要綱についてのところは従前より開発総務で担当されておるわけでございますが、今後こういう形で生活排水重点、そういうことをやっぱりやっぴりやっぴりやっぴりしたら合併浄化槽は大変効果があるということでございますので、こういった行政の推進とかかわって早急に担当セクションを庁内関係課で協議いたしまして明確

にしまいにしたいというふうに考えております。

鈴木委員 昭和62年に厚生省の方から法改正になりまして、この合併浄化槽についてはどんどんやりなさいよという、当然枚方市がいつの時代に完全に最終的に整備地域になって100%の市街化になるかわかりませんので、その間そういった河川の汚濁といいますか、そういった水質から考えると、この合併浄化槽というのは効果的な作業なわけですよ。そこで、今言いましたように、担当所管がないということについては、大きな僕は行政の対応としては問題やと思うんですよ。今おっしゃったように、早急に対応されるポジションはどこなのかということは、僕は即作るべきだと思いますし、ただ岡山県の倉敷市を見ますと、ここが単独で合併浄化槽設置推進室というのがあってですね。そこで特に下水の整備地域が遅れる分については、そういうプロジェクトの部屋を作って推進していこうということまで行ってるわけですから、特に広範な枚方からしますと、そこまでの時に来たと違うかというふうに思うんですけど、ただ単なるその課で受けるんじゃないし積極的にそういう攻めの、攻めというか積極的な推進でのそういう場所でプロジェクトにすべきではないかと思うんですけども、その辺まで踏み込んでなさるかどうかがお尋ねいたしたいと思います。

中島市長公室長 ただいまの積極的な、今、他市の例を挙げられましたが、枚方市の下水道の促進の計画というのは、先ほど御指摘になられたわけですが、そういった下水道の促進との関係もございますし、十分今後庁内の関係課で協議して、そういったことを視野に入れながら検討したいというふうに思います。

鈴木委員 そこで、あわせてもう一点だけ申し上げたいんですけども、庁内でそういう形で作っていただくと同時に、今、全国の市町村で1,300の地方自治体の方でこの合併浄化槽についての合併の部分だけの補助金の対象があるというふうに聞いております。これは国の方からの補助金の体制もありまして、大阪府の南部の方では既に実施されてる市もありますし、単独浄化槽のときに合併浄化槽も付けるについては、その合併の部分だけの助成を枚方市の方でもしていただければ、特に環境面での効果もありましょうし、水道局の方の形もクリアしましょうし、公害の方にもクリアできるわけですから、その対策をされるそういったポジションと同時に、その次の段階でそういった助成制度の検討もお願いできないのかお尋ねいたしたいと思います。

中島市長公室長 ただいまの御質問の点はよく理解できますので、早急に担当セクションを決める中で、そういった枚方市が対象地域になるのかどうか、そういったことも大阪府とその担当セクションで協議をやっていただこうと、こういうふうに考えております。

鈴木委員 じゃあ、一応よろしくお願ひいたします。以上で終わります。ありがとうございました。